【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成16年8月12日(2004.8.12)

【公開番号】特開2001-271942(P2001-271942A)
【公開日】平成13年10月5日(2001.10.5)
【出願番号】特願2000-84795(P2000-84795)
【国際特許分類第７版】
　Ｆ１６Ｋ　 1/14
　Ｆ１６Ｋ　11/072
　Ｆ１６Ｋ　31/04
　Ｆ１６Ｋ　31/524
【ＦＩ】
　Ｆ１６Ｋ　 1/14　　Ｆ
　Ｆ１６Ｋ　11/072　　Ｚ
　Ｆ１６Ｋ　31/04　　Ａ
　Ｆ１６Ｋ　31/524　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成15年7月24日(2003.7.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
すなわち、両弁支持枠２ｃ２，２ｃ３は、ガイド基板２ｃ１からほぼ直角に立ちあがるように設けられていて、バルブ継手管７ａ，７ｂ及び弁球体３ａ，３ｂのそれぞれを三方から取り囲むコの字状をなすように形成されている。そして、それらの各弁支持枠２ｃ２，２ｃ３における一対のコの字状の開放部どうしが、互いに中心側に向かって対向するように配置されており、当該各弁支持枠２ｃ２，２ｃ３の両壁面に対して、バルブ継手管７ａ，７ｂの鍔型状の押え部７ａ３，７ｂ３が当接することによって、予め決められた所定位置に位置ズレなきように保持されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９４】
また、このとき、板バネ１０は、４箇所に設けられた突出部１２ａがケースカバー２ｂの鍔部２ｂ４の下端面によって押さえられた状態で支持される。これによって、弁球体３ａ，３ｂには板バネ１０のたわみ力により上方からバルブ継手管７ａ，７ｂ側に押さえつけられる力が働く。この板バネ１０による弁球体３ａ，３ｂをバルブ継手管７ａ，７ｂ側に押さえつける力の方向は、前途したロータ部４ｂ２に対して下方側（バルブ継手管７ａ，７ｂ側）に付勢力を与えるコイルバネ４ｂ７の付勢力と同じ方向であるので、弁球体３ａ、３ｂに対しバルブ継手管７ａ，７ｂの弁口７ａｖ，７ｂｖ方向への押さえ力を効率良く与えることができき、安定した動作を行うことができる。